国　語　科　学　習　指　導　案

授 業 者 [redacted]
授業学級
授業場所

1　単元名　「握手」を読んで批評家になろう

2　単元の目標

（1）　登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読もうとする。
【関心・意欲・態度】

（2）　回想と現在が交錯する構成を把握し、登場人物の言動や描写から、人物像やその生き方を理解することができる。　【読むことーイ】

（3）　作品の内容や人物の描かれ方、文章表現や構成上の工夫などについて、自分なりの視点で作品を読み深め、批評することができる。　【読むことーウ】

（4）　解釈を基に適切な言葉を使って文章に対する批評を行い、それを表現することができる。　【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3　単元について

①　言語活動

新学習指導要領　「Ｃ読むこと」の言語活動例 ア　物語や小説などを読んで批評すること。

・「握手」のよさや価値について視点や根拠を明確にしながら批評、及び意見交流をし、読みを深める。

②　教材について

「握手」は、子どもたちのために献身的な生涯を送り、人を愛し、人のために尽くすことを自らの喜びとしたルロイ修道士のエピソードを通して、生きることと死ぬこと、また、人と人とのつながりの温かさをしみじみと感じさせてくれる作品である。数々の困難に遭遇しながらも、その時々に喜びや満足を見出し、決して人間に対して絶望することのなかったルロイ修道士は、自分の求める理想や幸福をしっかりと思い描き、他からの評価にとらわれることなく、地道に実践してきた人であったと思われる。

物語は「わたし」の一人称で書かれている。「上野の西洋料理店」でのルロイ修道士との会話をベースに展開するが、そのところどころに、天使園時代の「わたし」の回想が挿入される構成になっている。これにより、現在交わされている会話と過去のエピソードの双方から、実直で慈愛に満ちたルロイ修道士の姿が浮かび上がってくる。奥行きのある二重構造、これがこの作品の特徴である。

また印象的な描写にルロイ修道士の指によるサインが挙げられる。彼には、自分の感情や意志を指のしぐさで表す癖があるが、そのしぐさの一つ一つが登場人物の声にならない思いを繊細に表し、作品の持つ奥行きにつながっている。特にラストシーンにおいて「わたし」が「両手の人差し指を交差させ、せわしく打ちつけ」る姿は、ルロイ修道士を失ったことに対する喪失感や、最後の間際まで自分の体をいたわることより、かつての教え子たちに会うことを優先した恩師へのやるせない思いを表していると同時に、

知らず知らずのうちに、ルロイ修道士から「わたし」が受け継いだものの大きさを感じさせ、感動的である。

③　単元のねらい（授業者の意図）

本単元では、第３学年「読むこと」の言語活動例「ア　物語や小説などを読んで批評すること。」を通して、指導事項「イ　文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」、「ウ　文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「イ（ア）時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。」を指導する。

具体的には作品の構成や表現・描写の工夫など、自分なりの視点から作品の良さや価値について批評するという言語活動を行う。学習指導要領によると「批評」とは「対象とする物事や作品などについて、論じたり、評価したりすること」とある。また「物語や小説を適切に批評するためには、文章を主観的に味わうだけでなく、客観的、分析的に読み深める力が求められる。また適切な批評をするためには、作品を分析する力が必要である。」と書かれている。

これまで本校の生徒は作品を分析する力を養う実践として、２年時の「走れメロス」において物語を「…が～する物語。」という一文に要約させ、様々な視点から作品を捉えさせる授業を展開した。その結果、メロスの視点だけではなく、セリヌンティウスや王の視点から文章を分析する生徒も見られ、様々な視点からの読みの育成については一定の成果を果たすことができた。一方で、大部分の生徒がメロスに偏ってしまい、物語を読む際、画一的な読みになってしまう傾向もあった。作成した要約の意見交換においても他人の意見を批評する場面はあまり見られず、意見に対して頷いて終わりになってしまった。

また、生徒の普段の発表や感想文を振り返ると「良かった」「おもしろかった」「だめだった」などといった単語レベルの貧弱なものが多く、語彙も乏しい。それは日常生活でも見られる課題であり、自分の気持ちを「やばい」「うざい」「病む」などといったいわゆる「今流行り」の言葉で片付けてしまうことが多く、本校の生徒にとって客観的に物事を見つめ、語感を磨き、語彙を増やすことは必要不可欠と考える。

そこで本単元では「解釈を基に適切な言葉を使って文章に対する批評を行い、それを表現する」という目標を設定することで、先に挙げた課題を克服する一助としたい。また様々な観点の批評に耳を傾けることで、作品に対して多角的に読みを深められると考えた。

今回批評を行うにあたり、生徒にとっては初めての学習になるが、あくまでも読みの手段としておこなう。それは、「書くために読む」よりも「読んだことを書く」ほうが、生徒側の視点に立った時、素直な思考の流れだと思うからである。さらに語彙についても「批評の言葉」を例示することで、客観的な批評になるように促し、語感を磨かせることで読解力を身につけさせたい。ひいてはそれが日常生活の言語環境の向上にもつながると考え、本単元を設定した。

４　生徒の実態

[redacted]

学級全体としては個性豊かな生徒が多く、授業に対しては真面目に取り組んでいる。また読書が好きな生徒が 25 人と多く、活字に対しての抵抗はあまりない。ただ、発表の場

面になると間違えることを怖がり、なかなか手が挙がらない状況がある。国語に関する実態調査を行ったところ、以下のような結果が出た。

（ア）国語の学習で一番伸ばしたいと思っている力はなんですか。
・読解力…12 人　・言葉の使い方を理解し、活用する力…7 人　・文章表現力…5 人
・その他…10 人
（イ）読解力はある方だと思いますか。
はい…9 人　　いいえ…25 人
（ウ）読解力をつけるために、自分自身どのような学習や訓練が必要だと思いますか。
・本をたくさん読むこと…21 人
・本について感じたことや考えたことを文章にまとめること…10 人
・文章の要点をまとめること…11 人
・読めない漢字を読めるようにしたり、意味のわからない語句の意味を調べたりすること…11 人

以上の結果から、読む力が足りないと思っている生徒が多いと同時に、読解力をつけたいと思っていることがわかった。そのために必要なものとして、「読書」や「読書のあとに文章にまとめること」と答える生徒が多く、読む学習に対して意欲を示している。今回批評は初めて行うことになるが、以上の結果から読解力を伸ばす一助となることを期待したい。

5　評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する事項
○登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読もうとしている。	○文章を吟味し、批評文を書くことを通して、文章全体の理解を深めている。（１）ウ	○作品を読んだり、意味を調べたりしながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。（１）イ（ア） ○解釈を基に適切な言葉を使って文章に対する批評を行っている。（１）イ（ア）

6　学習計画（７時間）

時	学習活動と内容	教師の指導と支援	評価規準
1	○『握手』を批評するという目的意識をもたせ、学習の見通しを持つ。 ○教科書ｐ３３～３４を見ながら批評に必要な要素を知る。 ○『握手』を通読し、初発の感想を持つ。	○「走れメロス」の批評の具体例を見せ、イメージを膨らませる。 ○「批評」は批判ではなく、よい点を見つける視点が含まれていることを具体例を見せて、確認させる。 ○感想が出てこない場合は、気になる描写や疑問を探しながら読ませる。	○批評の目的や意味を知ろうとしている。(関) ○感想を持ちながら作品を読んでいる。（読）

2	○物語を再読し、初発の感想、疑問を自答したものをワークシートにまとめる。 ○自答における解釈はひとりよがりの傾向や、回答できないこともあるので、相互交流を行い、友人の見解を聞き、解釈を行う。	○自答は本文からの根拠、自分の知識、体験から考えさせる。 ○どうしてそのような印象をもったのかワークシートに書かせる。 ○すぐに回答を見出せない場合は後でまとめて考えさせる。	○根拠を明らかにして回答を見いだしている。（読） ○自己の解釈ついて、相手に伝わるように意識して説明している。(話)
3 4	○作品の登場人物や場面の設定を確認する。 ○「わたし」やルロイ修道士にまつわるエピソードを整理し、作品の構成をとらえる。 ○会話文の言葉やルロイ修道士のしぐさなどから、人物像をとらえる。 ○「わたし」のルロイ修道士に対する心情をとらえる。	○前時の学習を振り返り、作品の主な登場人物や場面のおおまかな設定を板書で確認させる。 ○回想のきっかけとなる事柄や行動に注目させる。 ○ルロイ修道士の人物像が読み取れる描写をワークシートに抜き出させる。 ○しぐさとその意味の関連を確認させる。 ○「わたし」の思いが読み取れる描写をワークシートに抜き出す。 ○「握手」をするときを日常経験から考えさせる。	○基本的な人物や場面の設定を押さえている。（読） ○ルロイ修道士の人物像を捉えられる文に線を引き、人物像を読み取っている。(読)
5 6 本 時	○批評文について知る。 ○Ｐ３６・３７の関連教材を読み、批評について理解を深める。 ○批評文を書く価値を確認し、批評に使う評価の言葉を確認する。 ○自己の読み深めた解釈をもとに批評文を作る。	○批評文の具体例を示しながら、書き方を説明する。 ○単なる好き嫌いではなく、その理由を明確に書けるようにさせる。 ○前時までの解釈を参考にさせる。	○批評文の書き方を学ぼうとし、理解を深めようとしている。（関） ○作品中の言葉にこだわり、自分なりの感想や読後感を表現している。（読） ○観点を定めて作品を読み返し、気づいたことや考えたことを批評文にまとめている。（読）

	（批評メモ例） 僕はなぜ最後の場面で「両手の人差し指を激しく交差させ、せわしくうちつけていた」のか疑問であった。物語中、この動きは「お前は悪い子だ」というサインだとある。最後の別れの場面で、自分が恩師に対して何もできなかったやるせなさ、無念さから自然とでてしまった動きなのであろう。 『握手』はそのしぐさの一つ一つが登場人物の声にならない思いを繊細に表す、奥行きのある作品になっている。		
7	○批評文をもとに、友達と批評を交流する。 ○友達との批評の交流を振り返りながら、作品を黙読する。	○交流はグループによる発表形式で行う。 ○２番目以降の発表者には、前の発表の内容に対してコメントさせてから、自分の発表をさせる。 ○作品を批評する際、様々な切り口があることに気づかせ、次回以降の本を読むときの参考にさせる。	○批評文をもとに、自分の作品のとらえ方をわかりやすく発表している。（話・聞） ○友達の発表に耳を傾け、視点や読みを的確に捉えている。（読）

6　本時の学習

（１）本時の目標

①登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読み、批評しようとする。

【関心・意欲・態度】

②場面や登場人物の設定などに注目し、内容を捉えて批評することができる。

【読むこと―ウ】

③解釈を基に適切な言葉を使って文章に対する批評を行うことができる。

【言語に関する事項―（１）イ（ア）】

（２）本時の展開（５／７）

過程	時配	学習活動と内容	指導上の留意点と支援	評価・資料
導入	５分	○学習課題の確認 ・本時の学習課題を知る。		・プリント ・ノート
	学習課題 今までの読みを振り返り、批評してみよう。			
展開	15 分	○批評文について知る。	・批評文の具体例を示しながら、書き方を説明する。 ①自分の読みを振り返り、批評の方向を決める。 ②中心となる評価を一文で表現する。 ③モデルを参考にして批評文を書く。 ※モデルのとおりに書かなくても良いと言うことも伝える。	評価① （観察）

	10 分 15 分	○教科書Ｐ36～37 を読み、批評について理解を深める。 ○批評文を書く価値を確認し、批評に使う評価の言葉を確認する。 ○前時までのワークシートと批評モデルを参考に批評文を作る。	○教師による範読を行う。 ★単なる好き嫌いではなく、その根拠を明確に書けるようにさせる。 ・お互いに批評し合うことで、自己を理解すること、相手を理解することにつながるということを伝える。 ★ワークシートの順番通りにまとめていけばよいことを伝える。 ★前時までに人物像や自問自答による解釈が終わっていない場合は、そちらも考えさせ、プリントに書かせる。	評価② （プリント） 評価③ （プリント）
まとめ	5 分	○次時の授業の確認	・次回も引き続き、批評文の作成を行うことを確認する。 ・批評し合うことによって、他者との価値観の違いを理解できるということを伝え、最後に批評し合うことを伝える。	

★支援を要する生徒への手立て

（３）本時の評価

①登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読み、批評しようとしていたか。【関心・意欲・態度】

②場面や登場人物の設定などに注目し、内容を捉えて批評することができたか。【読むこと―ウ】

③解釈を基に適切な言葉を使って文章に対する批評を行うことができたか。【言語に関する事項―（１）イ（ア）】